なんでもインフォ 2022. 2

発 行　株式会社 昭和土木設計
岩手県矢巾町流通センター南４丁目１−23　Tel 019-638-6834　Fax 019-638-6389

～防雪柵の種類について～

はじめに

この冬の岩手は、昨年にも増して雪の多い年となりました。通勤時や業務中の運転等で苦労した方は多いと思います。今回の「なんでもインフォ」は降雪時の道路の安全を守る「防雪柵」の種類について説明したいと思います。

防雪柵とは

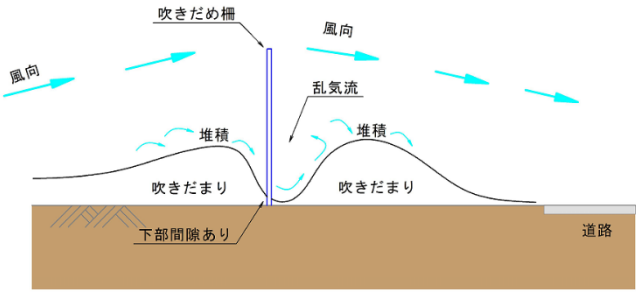
「防雪柵」とは、道路近傍や路肩に設置する柵で、風雪を抑制し、吹きだまり防止やドライバーの視程障害の緩和を目的とした施設です。「防雪柵」の設置については、柵の特徴を踏まえ、立地条件、道路構造、沿道環境を考慮して「防雪柵」の型式を選定する必要があります。

防雪柵の種類

●吹きだめ柵

「吹きだめ柵」は、道路の風上側に設置して風速を弱め、柵の前後に飛雪を堆積させることによって、道路への飛雪の吹込みと吹きだまりを防止する柵です。

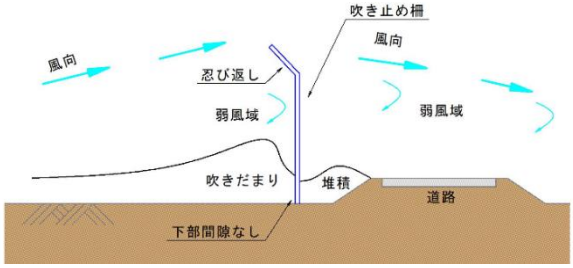
風下側の吹きだまりが道路に及ばないように、**道路から離して設置する**必要があります。このため、一般に借地し仮設的に設置される場合が多く、毎年の設置・撤去作業や保管場所の確保が必要になります。



●吹き止め柵

「吹き止め柵」は、吹きだめ柵に似ていますが、風上側に雪を多く捕捉し、かつ風上の防雪容量を大きくするために、柵の空隙率を小さくしています。更に下部間隙はゼロとし、上端は風上側に傾けた忍び返し型式が多いです。吹き止め柵は風上側に飛雪を堆積させる特徴があり、その分風下側の吹きだまりは小さくなります。道路敷地に設置できることから、道路上の防風効果も期待できます。

また、「吹き止め柵」の設置位置は、道路上の風速を弱める必要があり、道路に近づけて設置することに適した柵です。しかし、柵の風下側にも堆雪することと、除雪した雪の堆雪スペースを考慮して、**路肩からある程度離して設置**されることが多いです。

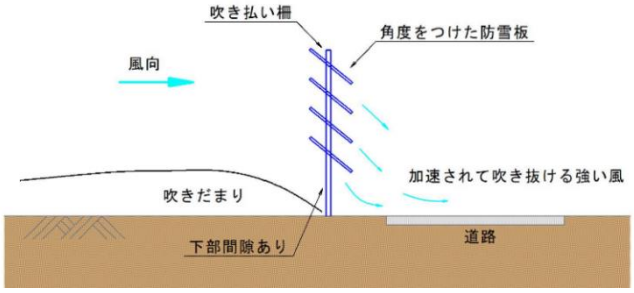


●吹き払い柵

「吹き払い柵」は防雪板で風を制御し、柵の下部空隙から加速されて吹き抜ける強い風で道路の路側や路面の雪を吹き払うことによって、視程障害を緩和することができる防雪柵です。

「吹き払い柵」は、吹き払い能力を大きくするため、複数の防雪板を風下に向けて傾け、路面の風速を強めますので、設置場所によっては歩行者への影響が大きくなる場合もあります。

柵の機能を維持するためには、**常に下部間隙を開けておくことが大切**です。積雪が多い地方では、除雪時にはできるだけ風下に投雪するなど、下部間隙の確保に努める必要があります。



以上の３種類の「防雪柵」を説明しましたが、「吹きだめ柵」は広い用地を必要とするため、道路沿いに設置する場合は「吹き止め柵」、または「吹払い柵」が選択されます。積雪の多いところは下部間隙の無い「吹き止め柵」、少ないところは「吹払い柵」を選択されることが多いようです。

おわりに

今回は、道路の吹きだまりや視程障害に対する対策として防雪柵を紹介しましたが、冬季における障害は路面凍結や圧雪等も発生しますので、運転の際はこれらの障害に注意を払う必要があります。まだまだ寒い日が続きますので、安全運転を心がけましょう。

株式会社 昭和土木設計の紹介

弊社は，道路・河川・橋梁等の計画・設計，GIS，IT ソリューション等の業務を行っております．
”なんでもインフォ“のバックナンバーについては http://www.showacd.co.jp をご覧ください．

配布者

作成者：水沢支店